

「今日も…するのですか…?」

「当たり前です」

「あなたは名家のご令嬢として常に品格のある身だしなみを心掛ける義務があります」

「うう…」

「我儘を言わないで下さい
仕事になりません」

「でも 恥ずかしいです…」



「お嬢様…半剥け状態でも品のない匂いが漂ってきます」

「お風呂でちゃんと洗っているのですか？」

「えっ？ はい…」

むき

「では一晩でこんなに溜めたのですね中身の方が心配になってしまいます」

「ん…♡はあはあ」

「これは…ひどい量ですね
スンスン…おえ…」

「いやあ…嗅がないで下さい」

「私も嗅ぎたくなんて
ありません」

ズルルル…

「チンコが勃起したせいで
私の鼻にチンカスが
ついたんですよ？」

「え…ごめんなさい…！」

「本当に反省しているのですか？
全然勃起収まりません」

「だって……らってえ……♡」

「どっさり溜め込んだ
チンカス指摘されて
興奮したのですね」

あっ♡

あっ♡

シユコ
シユコ

「お嬢様はマゾでいられましたか
お母様が見たらどんなに悲しむか……」

「ほわあ……♡」
(シユコシユキもちいよう……)

「わかりまひたっ♡
わかりまひたから
もつと優しく…」

「必要ありません」

あっ♡

あっ♡

ひゅ、

ひゅる

シユコ
シユコ

「私はお嬢様の恋人でも
何でもありませんので」
「マゾ用の一番効率の良い
搾精しか行いません」
「そんな…あっ♡あっ♡」



「はい」

「ぴゅー」

「ぴゅー」

びゅる、

キュ
ニッ

びゅるっ!

「ザーメンどぴゅー」
「ぴゅっぴゅっぴゅー」

「はい精液出しましたね
チンカスも全部取れました」

「用が済んだので失礼します」

「ま……まっへ……
ぼっき……収まらなくへ……」

ビーン、
ビーン

「知りません
自分でフェラでも
すればいいじゃないですか」
「そのぶっといチンコなら
一人で出来ますよね」

それではごきげんよう

チンカスお嬢様

